

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

| | |
|------------------------|---|
| 1 会議名 | 令和2年度 第2回 姫路市総合教育会議 |
| 2 開催日時 | 令和2年10月1日(木) 14時～15時35分 |
| 3 開催場所 | 姫路市防災センター 3階 消防局会議室 |
| 4 出席者又は欠席者名 | <p>〔構成員〕</p> <p>清元市長、松田教育長、松本教育長職務代理者、田寺教育委員、吉田教育委員、山下教育委員、森下教育委員</p> <p>〔関係者〕</p> <p>黒川副市長、高馬副市長、和田市長公室長、岡本教育次長</p> <p>〔事務局〕</p> <p>企画政策推進室 : 田邊室長、池田主幹、松浦係長、溝口主任</p> <p>教育委員会事務局 : 平田教育総務部長、原田学校教育部長、殿垣総務課長、網井教育企画課長 藤原健康教育課長、村山教育研修課長、小林人権教育課長 角倉学校指導課係長、太田学校指導課管理指導主事、寰島総務課課長補佐</p> |
| 5 傍聴の可否及び傍聴人数 | 傍聴人 2名 |
| 6 議題又は案件及び結論等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルスに感染した場合の児童・生徒の心のケア ・ 市立高等学校のあり方 ・ 学習用端末の活用促進 |
| 7 会議の全部内容又は進行記録 | 詳細については別紙参照 |

【議題1】新型コロナウイルスに感染した場合の児童・生徒の心のケア

- ・ 情報があふれるなかで、濃厚接触者の定義などを明示し、正しい知識を持つことが必要である。
- ・ 被害者・加害者（感染症をうつした・うつされた）の意識ではなく、新型コロナウイルス感染症を「共通の敵」として、意識の向きをあわせることが重要ではないか。
- ・ 時々刻々変化する情報を捉え、児童・生徒指導に生かしていくべきである。
- ・ 情報を秘匿することによる憶測がデマにつながるため、関係団体と調整のうえ、必要な情報を提示するとともに、迅速な検査を実施することが重要である。
- ・ 正確な情報がないと、不安が不安を呼ぶ。
- ・ 感染した児童・生徒や、濃厚接触者となった児童・生徒に対して、嫌だった経験や嬉しかった周囲の対応など、スクールカウンセラーが積極的に話を聞き、学校間で情報を共有してはどうか。

【議題2】市立高等学校のあり方

- ・ 市立高等学校は、概ね定員を維持してきたが、県立高等学校は、定員を減らしている。定員を維持する以上、学力の質を維持するための配慮が必要である。また、コロナ禍においては、ソーシャルディスタンスの観点からも、定員を検討すべきではないか。
- ・ 姫路で教育を受けて、将来姫路の発展に寄与する人材を育成することが必要である。ハイスクールアクションプロジェクトの「ふるさとを愛し、地域の発展に主体的に貢献する人間」とはどんな人材か、議論を深めていってもよいのではないか。
- ・ 教育のゴール・コンセプトを明確にすることは、重要である。中高一貫教育を活用し、3年で不十分であれば、6年でゴールを目指すことも考えられる。
- ・ 特化コースの生徒の進路（学部・就職先など）を分析すべき。
- ・ 例えば、将来の食糧問題に関わる分野として、農業、水産業、物流関係が重要になってくると想定するが、生徒自身がどういう分野で社会に出ていきたいか考える機会を設けるべきである。
- ・ 将来的に、職業の半分以上がなくなるといわれていることから、自分の発想で生きていける力を身に着ける教育が重要である。
- ・ 早い段階で、将来の夢を持つ方がモチベーションにつながる。学力を確保しつつ、専門的な講師の授業を受ける機会も必要ではないか。
- ・ 企業の誘致など、魅力ある住みよい街をつくることで、人材を集めることも必要ではないか。
- ・ この議題については、今後も議論していきたい。

【議題3】学習用端末の活用促進

- ・ ICTを活用し、新型コロナウイルス感染症などにより登校できない児童も同じ授業を受けられる環境を整備すべきである。
- ・ ICTは、引きこもり等の児童・生徒の教育機会を確保できる可能性がある。
- ・ タブレットは持ち帰って、家庭学習で使用できてこそ、効果が上がると思う。
- ・ 遠隔教育と対面指導を使いこなすため、学科担任による専門教育と、クラス担任によるクラスの融和を組み合わせる方法が考えられる。